

鶴川東地区の学校統合に伴う避難施設機能について

学校が担っている避難施設機能は、学校跡地をはじめ、統合新設校や周辺施設等も含めて、その地域にとって最適な配置を検討し、引き継いでいきます。

対象	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
鶴二小	既存校舎		新校舎建設			☆新校舎使用	
		仮設校舎建設	統合	仮設校舎			
鶴三小 (一部)	既存校舎		※既存校舎				

1 工事期間中（2026年から2028年）の鶴川第二小学校の避難施設機能について

（1）仮設校舎の活用

仮設校舎を避難施設に活用できるよう検討します。

（2）近隣の避難施設に分散

防災課と自治会等で想定避難先を決め、既にその想定避難先への避難を決めている自治会等との間で調整の場を設けます。

近隣の避難施設：鶴川第三小、大蔵小、鶴川第二中（地震時のみ）、真光寺中（地震時のみ）

（3）避難場所の拡充の検討

避難施設になっている学校の空き教室の開放、現在避難施設に指定されていない施設（民間施設も含む）の活用、避難広場にテントを張れるようにするなどの拡充を検討します。

2 2029年以降の鶴川第三小学校の避難施設機能について

（1）近隣の避難施設に分散

防災課と自治会等で想定避難先を決め、既にその想定避難先への避難を決めている自治会等との間で調整の場を設けます。

近隣の避難施設：統合新設校（現鶴川第二小の位置）、大蔵小、鶴川第二中（地震時のみ）、真光寺中（地震時のみ）

（2）避難場所の拡充の検討

避難施設になっている学校の空き教室の開放、現在避難施設に指定されていない施設（民間施設も含む）の活用、避難広場にテントを張れるようにするなどの拡充を検討します。

（3）鶴川第三小学校跡地における避難施設機能

鶴川第三小学校跡地は隣接する鶴川第二中学校の校地として活用する予定です。それまでの間、避難施設機能を引き継ぐことについて検討していきます。

3 地域防災計画について

東京都被害想定が10年ぶりに改定されたことを踏まえ、市内各地区における避難者数を改めて推計し、2023年度に町田市地域防災計画を改定する予定です。なお、建物の耐震化等が進み、避難者の数は約40%減少が見込まれています。